自由で幸運すぎる傭兵

GTX970

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

傭兵をやっている人の話。

ドルフロや武器、兵器などの知識を持っている前提で書きます。

２０２０　８／５　タグ：不定期更新　追加

２０２１　２／１２タグ：ヤンデレ要素あり？　追加

目次

プロローグ ―― 1
大手からの依頼 ―― 7
整理整頓&被偵察 ―― 15
どうしよ ―― 20
衝撃の事実 ―― 24
やっぱりロマンは大事 ―― 34
逃走&はぐれ人形 ―― 43
都市防衛 ―― 52
災難と依頼 ―― 62
指揮官（仮）になりました ―― 70
指揮官（仮）になりました　拠点散策 ―― 79
ちょっと散策（依頼）に行ってきます。 ―― 87
雪原に来ました。 ―― 95
正規軍のすることは良く分からない ―― 103
正規軍よ、自重してくれ ―― 109

プロローグ

とある地区

四人の男が居た

「よし、準備はいいか？」

「大丈夫だ。お前らは？」

「なんもねぇぞ。」

「無いな。」

「よし・・・【こちら、ベータ。準備は完了した。】」

「【こちら、アルファ。了解した。これよりＰＭＣ爆破作戦をじっｋ】」

「お前なにｓ「ダン！」」

「おい！何が起こっている!?

ダン！ダン！ダン！

「ひっ」

「【こちら、アルファ!!何があった!?】」

「【こ、こちら、ベータ！攻撃をうけている。た、たすｋ「ダン！」ぐっ!?】」

バタリ

「【お、おい！警戒をしろ！ここからベータまで近いｚ「ダダダダダダダダ」あが・・・】」

こいつらはテロリストだったが、何者かに瞬時に二つの部隊が撃滅された。

テロリストを壊滅させた張本人は、というと

「【こちら、傭兵のサトウだ。テロリストを壊滅させた。】」

「【了解した、報酬を出しておく。】」

「【ＯＫ】」スチャ

「ふう・・・　帰るか。」

依頼主に報酬を請求していた。傭兵である。

ｓｉｄｅ～傭兵のサトウ～

俺の名前は佐藤（さとう）　颯一郎（そういちろう）。

ただの傭兵だ。

今日は、テロリストの撃滅任務だった。噂では強いテロリストらしかったが・・・　呆気なく終わったな。

まあ、それは置いといて。拠点の整理だな。依頼の報酬として、なぜか生きている飛行機地を貰った。引っ越しは終わっている。まあ、探索するか。知る事は大事だ。

二時間後

サラッと見たが、倉庫以外とっ散らかっていた。死体は無かったが、血が付いてたりしてた。クソ、詐欺だろ。ただし、収穫もあった。

倉庫には備蓄していたのか、食料、水、燃料は腐るほどあった。そのまま渡したのかよ…。しかも、食料などは腐っておらず、滑走路は使えそうだった。マジかよ。滑走路何に使えばいいんだよ。テント張れってか。

ファサリ

ん?チラシか。どれどれ…

B—29売ってます!!

か… は!?B—29!?売ってんの?!いや、移動拠点も兼ねた空の足には良いかもしれない… 金は普通に足りる… 買わねば!(使命感)

チラシに書いてあった電話番号を入力する。

ピッポッパ トゥルルルル ガチャ

【はい、こちらAZ通販です。】

【B—29を買いたいのですが。】

【は、はい!?少々お待ちを。】

【あ、はい。】

なんか、電話口から「あれ買う奴いたのか!?」とか、聞こえたのだが・・・　そこまで言うか?

いや、言うか。(納得)

で、色々あった。

ＡＺ通販本社に行き、書類を書いた。まあ、買うかの確認らしい。金は一括払いでやったので、ローンとかは無いが、さすがに今すぐ、配送は無理なので明日に送るらしい。

衝動買いしたので、大丈夫か、と考えてたが

ＡＺ通販について調べると

・安い、(配送が)速い、(品質が)良い　(牛丼かな?)

・そして、評判も良い

・日用品から武器、兵器。しかも戦術人形も売っている

・しかも、Ｗｅｂページまである

もはや、意味不明である。だが、ほぼ全ての物がある。これで乾電池買えるじゃん。

やったぜ。これでゲームボーイでテトリスできる。

俺は、ページにアクセスしログイン、そして乾電池、銃弾、あと装甲車も買うか。

さて、何しよ。買うものは買った、拠点(報酬詐欺)の探索はした、ゲームボーイは電池が無い。や

る事ねぇじゃん。あ、一つあったわ。
射撃訓練
やるか。拠点（ゴミ）の裏に行く。
ＡＫ―７４Ｍを構える。木を的にして撃つ。
ダン！ダン！ダン！
全弾命中した、フルオートも試す。
ダダダダダダダ
全弾命中、腕は落ちてない。
次、ＡＫ―７４Ｍを近くに置き、ブレン・テンをホルスターから出し、構える。
そして、撃つ。
ダン、ダン、ダン
全弾命中
ダンダン、ダンダン
全弾命中、弾切れなのでマガジンを変える。
カチャ　スッ
ホルスターにしまう。
こちらも腕は落ちてない。

最後に機関銃で長距離射撃でもするか。
九九式軽機関銃１９３９年に旧日本軍に採用された口径７．７ｍｍの軽機関銃。なんで持ってんの？こいつ。を出す。
とりあえず、あの１キロぐらい離れてる岩を狙うか。
ダダダァン!!ダダダァン!!ダダダァン!!
おろ、まだ砕けないな。
ダダダダダダダダダダァン!!!
一マガジン打ち尽くす。
さすがに、７．７ｍｍ弾の雨に勝てなかったようで粉々に成っていた。
それぞれの銃の簡易メンテナンスをしたあと、マガジンを変抜き、拠点《血まみれ》の倉庫で寝袋に入り寝た。

大手からの依頼

チュンチュンチュン

朝だ。朝日が気持ちいい。

ああ、依頼を確認しないと。知名度ないし、独立傭兵だからあまり依頼は来ないんだよな。あるか、ないか。できるなら来てほしい。Ｂ―２９衝動買いしたし。

基本、依頼はメールで受け付けているので

メールを見る。

あった。一つだけあった。

差出者

グリフィン＆クルーガー…

ええ…。（困惑）

依頼内容は、戦術人形が鉄血に捕まったから、救出をして欲しい、救出したあとは、部隊を送るから、その部隊に引き渡して欲しい、という事だ。

はあ、マジかよ。人形の戦場には行きたくないぞ。装甲車でもあればいいが…。

そんなこんな考えてたら

「おーい！誰かいますかー！」

俺を呼んでいるようだ。行くか。

「はーい、誰ですか。」ガラガラ

「あ、居た居た。お届け物です。こちらにサインを。」

あ、まさか昨日ポチッた物かな？

銃弾、乾電池、装甲車…をポチッたっけ？　確認すると、装甲車は無難にハンヴィーにしてあった。

いや～、なんとなく買ったハンヴィーが役に立つとは…。

というか、記憶力ねぇな、俺。

ま、準備して救出にいきますか。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ブロロロロロロロロロ…

いやー、遠かったわ～。３０分ぐらいかかったぞ。

もうそろそろ着くかな？

お？あれか？

先には、基地があった。鉄血人形が警備のためか、巡回している。

「さて、や（殺）りますか」

一人で巡回している鉄血人形がいた。
俺は静かにその鉄血人形に近づき・・・
相手が声を出す前に殺す
「?・・・ !?」
よし、周りに気づかれてない。内部に潜入だ。
ーーーーー
適当に見つからないよう、ほっつき回っていたら救出対象のいる部屋を見つけた。
なんか、鉄血人形が救出対象に拷問している。
救出対象は拷問のため気絶している。
胸糞悪い。
早いとこ救出しよ。
愛銃(AK-74M)を取り出し、掃射する。
大体の鉄血人形は倒れたが、一体避けたのか五体満足のようだ。
「初めまして・・・ そして、死んでください。」バババババ
その鉄血人形の周りに浮いているドローンみたいなやつから攻撃された。
俺はそれを避け、そこら辺にある遮蔽物に隠れる。
「あっぶね!?・・・ もしかしなくても鉄血ハイエンドか、お前?想定外だわ。」

下級人形とは思えない動きをしているから、鉄血ハイエンドか？
「いいえ。私は、上級人形です。それが何か？貴方こそ、規格外ですが。」バババババ
カンカンカンカンカン
「マジかよ…」
ハイエンドと上級の違いって何よ。
ダン!!
苦し紛れに一発撃つ。
ガン‼
「っ」
どうやら、ドローンみたいなものにまぐれ当りしたようだ。
というか、彼女あのドローンモドキに頼りっきりじゃないか？そうだとしたら、まずは、あのドローンモドキを破壊してみるか。
俺はＭ８４スタングレネードを取り出し、ピンをはずして…
銃撃に混ぜながら投げる！
ダン！ダン！ダン！コロコロ…
閃光と轟音が鳴り響く。
「うっ…」

よし、チャンスだ!!俺は、素早く、かつ正確にドローンモドキを全て破壊し、彼女の手足にも弾丸を打ち込んだ。
「私の負けですわ…」
「そうだな…じゃあな、俺の任務は救出なんで。」
そう言いつつ、救出対象をおぶり他の鉄血人形に見つからないよう、ハンヴィーに運ぶ。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ブロロロロロロロロロロ…
「ん…ん?」
あ、起きた
「起きたか。大丈夫か?」
「え?…ちょ!?誰!?」
「意外と大丈夫そうだな。俺はただの傭兵だ。グリフィンからの依頼でお前を救出しにきた。」
「そうなの~?ま~、ありがとう。私は、
Ｖｚ６１スコーピオンだよ、よろしくね~。サソリと言っても、毒はないよ~♪」
「スコーピオン、か。俺は佐藤　颯一郎だ。よろしく。」

とりあえず、簡単な紹介した。
キキー・・・
俺は装甲車を止める。ここに、救出対象・・・　スコーピオンを運べと言われたが・・・。
まあ、待つか。ゲームボーイで遊ぶか。
ガサゴソ
「何探しているの?」
「これだ。」
そう言い、スコーピオンにゲームボーイを見せる。
「なにこれ。」
「これは、ゲームボーイというゲーム機だ。大体、今から７３年前１９８９年　日本、アメリカで発売　１９９０年　ＥＵ　１９９１年　韓国で発売に売られていたゲーム機だ。」
ゲームボーイを起動し、テトリスをする。
テトリスお馴染みの音楽が流れ、ゲームが始まる。
「お～。お?.お!?.す、すごい。」
俺の腕※世界ランカーレベルに驚いているようだ。ふと、俺が
「やるか?」というと・・・。

「いいの!?」
　と言い、速攻でやり始めた。
「これをこうして…　ここは…。」
「あれっ?失敗しちゃった…。」
　が、速攻でコンテニュー。
「すまん、ちょっと貸してみろ。」
「え、うん。」
　とりあえず、ちょっとブロックを積み…
「こういうときは～」
「ふむふむ。」
「逆にこういうときや、こういうのは～」
「こういうのも有るのか♪」
「まだまだ有るぞ。この隙間に～」
　スコーピオンにテトリスのコツやらを教えていたら…
「あ、あの～。」
「ん?あ、ごめん。スコーピオン、来たぞ。」
「え!?本当!?」

意外と時間が経っていたようだ。
「じゃあな、スコーピオン。また、いつか。」
「バイバーイ。サトウさーん。」
ブオーン…　ブロロロロロロロロロ…
スコーピオンか、人形買おうかな?でも、疲れたな。明日考えるか。

整理整頓＆被偵察

「よいしょ。これで最後か。」
俺は仕事道具や私物など、その他少し危ないものここ重要を運んでいる。
いや～、やっとＢ―２９がきたわ。これで拠点（倉庫以外いらんない）とこで、寝なくてすむ・・・。
そういえば、Ｂ―２９のオマケにＴ―６００外見はエンドスケルトン状態とか言う、戦術人形？戦闘用ロボット？みたいなのが六体付いてきた。調べてみたところ、結構古いロボットだった。
ほんと、オマケって感じ。まあ、警備とかにつかせているけど。
三体がＢ―２９周り、二体は倉庫、最後の一体は俺の護衛兼アシンスタント。
「ここでいいか。」
荷物を下ろす。
「そういえば、あれから三年か・・・。」
突然、〝とある〟ことを思い出した。
まだ、傭兵を始めたばかりの頃のことだ。
正規軍から何故か依頼が入ってきたのだ。内容は、言えたもんじゃないがな。

まあ、そんなこと気にする必要は無い。少し昼寝するか。

元拠点（ゴミ）から少し離れたところ

「ねぇ、４５姉（よんごー）。なんで〝一人の傭兵〟を偵察するのかな～？意味はあまりなさそうだけど・・・。」

「そうね、私もよく分からないわ。・・・　一つ言えるのは、グリフィンの〝脅威〟になる可能性ね。」

「たしかに！変な噂が飛び交っているんだよね～。」

「グウゥ・・・」スヤスヤ

「へー、そんなことがあるのね・・・。というか起きろ！寝坊助!!」

「フギャ!?!」

「まあまあ、落ち着きましょうよ、４１６。」

「そうだよ！４１６。怒り過ぎも良くないよ～。」

そんなこんなワチャワチャしている、４０４ｎｏｔ ｆｏｕｎｄ（存在しないはずの部隊）。

「あ、あれかな？なんか凄いことになってるけど・・・。」

どうやら、目的地に付いたようだが・・・

「え・・・　な、何あのちょっとした要塞的なもの!?」

「というか！あの、飛行機というか爆撃機は何!?周りにそれを守るよう、置いてあるロボットも何故あるの!?」
「あ、安心して・・・　ね、寝れそうじゃん。（　☒ω☒）スヤァ（現実逃避）」
「寝るな！」
「ま、まあ、皆落ち着きなさい。」
　そうＵＭＰ４５が言うが落ち着くのは難しいだろう。なぜなら、冒頭に書いてある通り、滑走路にはＢ―２９が、そしてそれを守るようＴ―６００が配置されている。ただし、Ｔ―６００だけじゃ戦力不足になるかもしれない。だからこの佐藤（戦力過剰野郎）颯一郎はタレットまで用意した。え？描写が無いって？
　こいつの運んでいた物は「仕事道具や私物など、その他少し危ないもの（ここ重要）」だ。タレットは（ある意味）危ないものである。戦争でもする気かな？
　ＨＫ４１６の（完璧という名の）メンタルを壊せそう。
　いっぱい寝れるよ！やったねＧ１１！
「ん？ねぇ、見て。誰かが出てくる。」

　佐藤ｓｉｄｅ
　数十秒だけ戻って

ん？少し寝すぎたな。
まあ、いいか。まだ昼だし。なんとなく、日でも浴びるか。
カツカツ
「あったけぇ・・・。」
こう感じると、太陽っていつの時代でも偉大だな。
今日は気分が良い。銃の整備でもするか。
思い立ったが吉日。早くやｒ「侵入者ヲ発見。捕縛ヲ開始スル。」は？
Ｔ―６００、特に俺の護衛をしているやつが言う。
これは、面倒くさそうだ・・・。
俺は、急いで愛（AK-74M）銃を取る。
Ｔ―６００達は草むらに近づいていった。刹那、銃撃戦が始まる。
と言っても、Ｔ―６００達はまず捕縛しようとしているから、相手が一方的に攻撃するだけだが・・・。なお、こちら側はほぼ無傷
幸い、相手の武器は音的にＳＭＧやＡＲだと思う。
こっちのＴ―６００は重（ミニガン）装（グレラン）備（サブで、機関銃　ついでに後ろにタレット）。まあ、大丈夫でしょ。
おっ？相手を視認できた。四人組で・・・。まさか、戦術人形か？
グリフィン、またはＩ．Ｏ．Ｐか？襲撃か偵察か、どちらにせよ、送り返すか。

ここか？

ダン!!

「!?っ!」バタリ

よし、銀髪みたいな人形の膝を撃ち抜けた。

撃ち抜かれた膝では、自身の体重に耐えられず倒れる。

そして、捕縛された。あ、他の人形も捕縛されt・・・ って!?いつの間にか相手全員、捕縛されてるし。意外とT―６００強いやん。古いって言ってごめん。

で、この縛り上げられてる人形達どうしよ。

どうしよ

私は、ＵＭＰ４５。
報酬を求めて、この任務を受けて失敗した。
偵察の任務だったが、相手がありえない強さだった。

目的地に着いた。隠密に偵察をするところだった。ちょっとした、イレギュラー（B−29 T−600 タレット）があったが続けるつもりだった。のだが、一体の戦闘ロボットが何故か私達を見つけた。
何故見つかってしまったかは、分からない。が、見つかってしまったのは仕方ない。臨戦態勢に入る。
見つかっているので仕方なく、やられる前に先制攻撃をかけようとした、いや、かけた。
引き金を引き、弾丸が出る。そして、ロボットの頭に当たったが・・・
ロボットに撃った弾丸は跳ね返った。そして、ロボットはほぼ無傷。
当然他のロボット達も私達に気づいたが、何故か重（ミニガン）装（グレラン）備（etc）なのに攻撃をしてこない。私は私達を殺（壊す）すのでなく、捕獲しようとしている。と悟った。

そこからは早かった。４１６が”対象”に膝を撃たれた時、私は助けようとした”が”、ロボットはそれより速く、４１６を捕縛した。それに唖然としてしまい、一体のロボットが直前ま接近しているのを視認した瞬間、目の前が真っ暗になり、意識が途切れた。

はぁ、どうしよ。調べたところこの人形達は４０４小隊（なんで分かるんだよ）らしい。
いやぁ、この小隊が来る理由は、いくつか思い当たる。
まあ、それがどうした。って言う話ですがね。とりあえず、拘束を少し緩めて、修復はやっとくか。昔、知り合いに人形のちょっとした傷の修復の仕方を教えてもらったから、やってみる事にする。

ＨＫ４１６　ｓｉｄｅ

「ん…　ん？」
私は寝かせられている？
「あ、起きたか。」
「ええｓひっ!?」
だ、誰よ!?

「ちょ?!動くな!?あぶね…　痛覚切っとけ。」
「え、ええ?」
「今、お前の膝を直している。大人しくしていてくれ…　ここはこうで…。」
…　思い出した。偵察したらバレて、返り討ちに合ったんだわ。
「あ、あの、一つ質問いいですか?」
「別にいいぞ。」
「あの、４５…　私の仲間達は…。」
「となりで寝てるぞ。」
え?
となりを見るとたしかに、４０４のメンバーが全員寝ているが、いた。
そういえば、何故か意識が急に途切れたんだったわ。何なんだろう。まるでｋｉｌｌスイッチを押されたような、それでもハッキングされた事に気づかなかった”はずはない”。なにが起きたの?
「よし、終わりだ。動いていいぞ。」
「あ、はい。」
そういえば、膝を確かこの人に撃たれたんだわ。その膝を直した…。
あの傷といえど、人形は精密機械。多少なりとも知識が必要なはず。なのにこの人

は、その知識を持っているようだった。

この人は何者なの？※爆撃機を衝動で買うようなバカです

嗚呼、元から私達に勝ち目は無かったのね。

衝撃の事実

とある地区の郊外
飛行場(基地が血まみれ)のとある場所にいる、男は溜め息をついていた。
はあ～…。
火薬の匂いと硝煙が立ち込め、Ｅ．Ｌ．Ｉ．Ｄ．の死体がある中で男はこう言った。
どうしてこうなった？
時を少し遡り…
４０４小隊との会話楽しかったわ。色々と個性豊かで疲れたけど。
…。
ラジオ「この度、ＡＺ通販はゼロ株式会社に商標を変更し～～…」
へ～、あの通信販売(万能通販)会社が名前変えたのか～
そういえば、メンテナンスに行ったけどあのオマケ(なんか来た)のＴ―６００ってよく調べたら、ハッキングも強らしい。しかも、４０４小隊のメンバーが気絶した原因って、ハッキングして、キルスイッチ押したらしいんだよね。
…

ん？俺、あいつらに暴走された時死ぬんじゃね？※こいつなら、大丈夫です。T－600
というか、依頼来ね～。
・・・ 寝るか。

「今日も依頼無し、っと。やっぱりフリーには来ないか。」
『傭兵は収入が不安定だ。やるとしたら組織ぐらい入れ。グリフィンとかな。あそこはまだ出来たばっかだが、成長しそうだ。』か、そういわれたが、そのグリフィンも、傭兵の代わりに人形を使おうとしている・・・」
「人生、辛いものだな」
・・・
ｐｉｐｉ!!
「なんだなんだ、依頼か？フッ、どうせイタズラか碌でも無い物だろ。」
ｐｉ
「ふむふむ、部隊の手伝いか。まあ良いじゃないか。差出人・・・
正規軍
か」

「・・・　は？は!?正規軍?!ナンで!?ファ!?」

十分後

「落ち着け、俺。考えろ。」

正規軍から依頼

←

E・L・I・D・（ヤバイ奴ら）の処理関係の手伝いらしき依頼

←

手伝い（捨て駒）

←

人生オワタ＼（＾ｏ＾）／

「（　。　д。）ハッ！・・・　だが、報酬は魅力的だ。いやこれ、死ぬ前提の価格設定だろ。兆まで書いてるし・・・」

「生きて、依頼を完遂できれば生活には困らない。覚悟を決めて行くか」

やっちまった。

やっちまったよ。

E・L・I・D・を一人で殺しちゃったよ。

明らかに、正規軍の方々がE．L．I．D．を見るような目で俺を見てくるわ。
え、待て。白衣着た、研究者みたいな人来たんだけど？
「すまないが、少し、検査をしていいか」

パチッ
「懐かしい夢見たな」
黒歴史に近いけど。
とりあえず、依頼でも見るか。
依頼
0件
え
まあ、仕方ない。こういう時こそ基地内部（鉄分豊富）でも行ってみよう。もう一回行けば、なんか見つかりそう。
???
そこには、”人”がいた。
いや、正確には人の形をした”何か”がいた。
”何か”は飢餓に陥っていた。だが、物音がした。微かで、少し遠くから。

”何か”は理解した。
獲物(人)の音だと

え～（困惑）何ここ。
頑丈そうな扉を開け、地下へと続きそうな階段を降りたら研究室な部屋に来たんだが。
というか、暗い。しかも、鉄臭い。銃にフラッシュライトつけっぱでよかったけど死体あんのかよ。
なんかないかなー。
ゴッ
ん？　これは・・・ライオットシールドか？
透明だから、ポリカーボネート製か。貰ってこ。
あとは・・・パソコンあった。つけてみよ。
フッ、つかないと思うがな。けど、押したくなる。
ポチッ
ほらやっｐ（ブオーン　は？
・・・照明だけついてないのか？

後でちょっと、調べるか。

”コーラップスによる未知の物質の生成、および兵器への転用”　作成年　２０４７年

目次

【破損済み】
【破損済み】
【破損済み】
【実験４】
【破損済み】
【遺書】

破損多くない？しかも一番下、遺書って。まあ、やばくなったら逃げるか。

実験４

先の実験でコーラップスが固体化し、物体を崩壊させずに被膜として物質を保護し、被膜の固体化コーラップスはいままで使用されてた物質より、有り得ないほど高強度及び軽重量であることが発見された。正式名称はコーラップスコーティング。詳しくは【破損済み】を参照。

この実験データを用い、ポリカーボネート製のライオットシールドにコーラップスコーティングをする。

結果

何事もなく、実験が成功した。見た目はコーティング前と全く同じであるが、破壊試験にかけたところ、１０ｍ以内からの戦車砲（砲弾はＡＰＦＳＤＳ日本語で装弾筒付翼安定徹甲弾。装甲を貫くのに特化した砲弾を使用）を直撃させても無傷であった。

これをさらに、盾や残り少ない戦闘車両に転用できるようにしなければならない。

ほんと、ナニコレ

この盾、戦車砲直撃しても、壊れるどころか傷すらつかねえの？

え？、え？

というか、２０４７年って。この技術が完成、そして使用してたら歴史かわってたのか？

核のＥＭＰで電子部品壊れるとはいえ、戦車一台ぐらい無事だからな。まあ、一台だけの装甲最強の戦車で戦況は変わらねえと思うが。

というか遺書見ないと。なんかヤバそうなこと書かれてるだろ。

”事故が起こって、同僚達がE．L．I．D．になってしまった。”
うん、それぐらいおきｒ
”俺ももう”
GAYYYYYYYYYYYYYYYYY
は!?　ブオン!!
「って、あぶねえ!!」
「ガチでヤバいぞこれ。ッ!!」
バシュッ！
サッ
あぶね!?ロケットランチャーまで持っていて、使えるのかよ!?
とりあえず、逃げよう！　ライオットシールドは置いてった方がいいか…
武器庫
武器庫に隠れたが…　ヤバいな位置は多分バレてる。
なんかないか
ん？　これは…　閃光手榴弾と…　ブローニングM2か？
弾もあるから…　いけるぞこれ。

そろそろくるか？
ガガガガッ!!
無理やり開けたな。
もう少し。
ドカドカ
あと少し。
ドカ
今だ!!
カキン！ガンッ
キーーーン
対策してても耳いてえ。だが、今だ！
UGYYYYYYYYYYYYYY
よし!!ちゃんと、効いてるな。
そして、頭を吹き飛ばす!!
ダダダダダダダダダッッッ!!
ぐちゃり
UGY：　GY：：　Y

「何とか・・・ なったか?」

意外とあっさり倒せたな。

E．L．I．D．としては弱い方だな。

あの後探索したが、特に何もなかった。

え、なんでパソコンついたんだ？　考えても仕方ないか。

なんか、めんどくさくなったから盾だけ拾って、地上に戻ろう。

やっぱりロマンは大事

いや～、やっぱり

戦車は最高だな。

なんか、９０％ＯＦＦとか、意味不明なこと書かれて売ってたから
オプションてんこ盛りで買っちゃたよ。
というか、Ｍ１Ａ２ＳＥＰに適当にオプション付けたせいで、高度に自動化され俺一人で全ての操作ができる。
もう、人なんかいらねぇと思うのは俺だけか？
まあ、自動化と言っても戦車にもともと付いてたものに、自動装填装置、ＲＷＳ車内から操作できる銃座をさらに自動化させたもの、ＡＰＳ、操縦席にディスプレイが付いてGPSマップやカメラの映像が表示されれている位。ディスプレイのイメージは、ＢＦ３のＭ１戦車に乗るミッションの一人称にマップや弾数表示などをした感じ
・・・

ここどこだ。
やべえ、戦車の操縦になれるために、適当に運転してたら変なところに来ちゃった。
ぱっと見、放棄された地区の街っぽいな。地区名は…　看板あった。Ｅ―４１か。
ラジオ聞いてたら、ニュースで鉄血に占領されたとか、速報であったな。
ヤバいとこ来ちゃた…。
こっちは戦車だが、数の暴力でやられる。
まだ、街には入ってないが見つかるのは時間の問題だ。
ダンダンダン!!
ん?誰かいるのか?遠くから銃声がする。
ズーム機能とやらで、見るか。

あれは…　ＡＲ小隊のＭ４Ａ１か?
鉄血に囲まれてるし。って、鉄血のハイエンドモデルっぽい奴もいるし。
援護するか。
Ｍ４Ａ１には当たらないように…
ダァァァン!!

ｓｉｄｅ～Ｍ４Ａ１～

「ハァハァ・・・　このまま・・・　じゃ・・・」

もうすでに弾はほとんどない、あるのは空のマガジンと自分の半身だけ。

装填されてるマガジンには六発は入ってるが、誤差の範囲である。

「ッ！」

ダンダン!!ダン!!

鉄血人形三体。一体、一発だが残り三発。

「またッ！」

二体。

ダンダン!!

残り、一発。

「よう、Ｍ４Ａ１」

不意に後ろから声が聞こえた。

「ッ」

ダン!!

ヒュン

「はっ、残念だったな。トリックだよ」
「…　何が目的ですか。処刑人（エクスキューショナー）」
「そうやって、時間稼ぎしても無駄だぜ。Ｍ４Ａ１。一つ言えるのは、命令されているだけだ。」
「さあ、もうおねんねの時間だぜ？」
「（Ｍ１６姉さん…　ＡＲ―１５…　ＳＯＰ…　みんな、ごめんなさい…）」

　そのときである。
　突如、爆発が起こり周りの下級人形が吹き飛ぶ。
「え…」「は？」
　遅れてくる砲のような…　いや、本物の砲の発射音が来る。
「ッ！…　どこのどいつだ!?」
　突然の砲弾に焦り、隙ができる。それをＭ４は見逃さなかった。
「隙あり！」
「やべ、クソ！」
　取っ組み合いの戦闘となった。

が、

「埒が明かねぇ」

「!?」

「これで終わりだ」

処刑人が距離を取り銃を向ける。

だが…

二人は目の前のことに集中しすぎていた。

Ｍ４の目の前、つまり処刑人の地面が爆発した。無慈悲に轟音と共に。

「ひっ…」

処刑人のスクラップがまき散れていた。

だが、びっくりしたもののに安心感が出てきた。

生きててよかった、と。

妙に甲高く力強い、エンジン音がすぐ近くからする。

「まさか… 砲弾を発射したのは…」

そう、戦車である。しかも、第３．５世代第二次世界大戦後が基準ののＭＢＴｍａｉｎ ｂａｔｔｌｅ ｔａｎｋ つまり主力戦車であるであった。

「・・・。」
「え!?」
　まだ、アナログな野砲かとＭ４は思っていたが、予想の斜めを行く電子機器マシマシの戦車だったので、驚くのは適切である。
　カチャ
「おーい、大丈夫か？」
「え、ええ。おかげさまで」
「そうか、重傷ではなさそうだな」
「あ、あの」
「？なんだ」
「乗せてくれませんか？」
　ｓｉｄｅ～佐藤～
「ええ、だから鉄血に追われてるんです」
「そりゃあ、大変だな」
「ところで、佐藤さんは何をしてるんですか？ＰＭＣの傭兵とか正規軍でもしてるんですか？」
「いや、俺はただのフリーの傭兵さ。」

「え、じゃあこの戦車は一体・・・」
「あ、この戦車は俺が買ったものだ」
「す、すごいですね～」
　お、そろそろ着くな。
「そろそろ、グリフィンの基地に着くぞ」
「ホントですか!?」
　で、着いたはいいけど
「警戒されてません？」
「キューポラから手だけ出して振ってみれば？」
　フリフリ
「大丈夫そうです。それではさようなら」
「じゃあな」
　フリフリ
「フゥ～、帰るか」

　さて、拠点に戻ったし戦車の給油でもするか。
・・・。

あれ、待てよ。この戦車、Ｍ１Ａ２のエンジンってガスタービンじゃ・・・。
燃料やら潤滑油はあるけど・・・ ガスタービンの整備ってどうやるんだ？
「なあ、ターミネーター。ガスタービンの整備の仕方わかるか？」
「・・・」
「おーい、ターミネーター？」

あれ、これは

「データヲ発見シタ為、可能デス」
大丈夫だった。
「すまん、燃料は入れとくから整備を頼む」
「了解シタ」
取り合えず一安心だな。

逃走＆はぐれ人形

ｓｉｄｅ　～佐藤～

なんか、グリフィン本社に呼び出されました。なんで？しかも夜遅いし。

そんで、いまグリフィンの代表取締役のクルーガーさんの目の前にいます。

いやいや、ただ依頼受けたからＴ―６００をつれて鉄血のまた違うハイエンドを倒したり、戦車で暴れたり、Ｂ―２９で鉄血の基地を爆撃!?したぐらいだぞ。

何がいけなかったんだ!?どう見てもおかしいです。本当にあり（ｒｙ

「傭兵様、いえサトウ様。お話をしたいことがあります」

「…何でしょう」

唐突に話を切り出された。

え、なにシバかれるの？俺。４０４小隊と

依頼で救出（Ｍ４は元々救出済）したＡＲ小隊が銃を持って、威圧してる気がするし。

「我が社と契約し、我が社に社員になってくれませんか」

「お断りします（即答）」

やべ、適当に返事しちゃった。

まあ、フリーな傭兵だと時間ないし失礼になってなければ大丈夫か？
「破格の待遇を「いえ、本当にお断りします」」
「私は今のところ、傭兵業を続けていきたいと思っています。今の傭兵業をやめ、他の仕事に就きたいとは微塵も思ってません。ので、お引き取りを」
失礼だがこうしとくか。
「……そうか」
ありゃ？雰囲気変わったし。嫌な予かｎ。
「申し訳ないが、拘束しろ」
は？
ヤバいじゃん!?即行で逃げる!!
相手はギリギリ銃とか構える前だし、今のうちだ!!
「はっや!?」
誰かがそういったけど、誰だか分からない。
んなこたぁどうでもいいが、逃げるのに専念だな。落ち着いて、考えるんだ。
ダンダンダン!!
「～～～～～」「～～～～～～～」
ファ!?

何いってるか分らんが、会話してるし。捕まえる方法でもかんがえてんのか？
でもな、普通撃つか!?いやまて、幸運にも一発も当たってない。
というか、一対八でどういけと？そういえば、戦術人形にはダミーリンクとかいうシステムがあったな。本体合わせて一体あたり最大五体だっけ？
…。
終わった。
「ねえ見て！行き止まりだぁ。追い詰めたぞ！」
え？ほんとに行き止まりじゃん!!
あんのは、窓だけか？
「そうだ、止まれ。大人しく拘束されろ」
いやだね。絶対、ブラックな業務で働かされるだろ。
そして、死ぬ。
「無理な相談だな」
もう、突き破るしかねぇ!!
「あばよ」
ダッ
ガラスの破片で少し痛い。

死なないといいな。

ｓｉｄｅ　～人形達～

佐藤は気づいていないが類稀な幸運のせいで、三体しか追いつけていない状況であった。

「チッ…挟み撃ちもできない。弾も当たらなかったし、あっち（幸運野郎）も結構考えてるのね」

「しっかし、奴の反応の速さには驚いたよ。私たち（戦術人形）より速かったぞ。４５」

「確かに、私も驚いたわ。Ｍ１６」

「ねえ見て！行き止まりだぁ。追い詰めたぞ！」

「そうだ、止まれ。大人しく拘束されろ」

「無理な相談だな」

「あばよ」

「ちょっ!?」

「正気か!?ここ十二階だぞ!!」

「ちょっとお兄さーん!?」

地上　ゴミ捨て場

「なあ、Ｍ４。そっちは？」
「いえ、特になにも…」
「ＡＲ―１５とＳＯＰは？」
「血痕ぐらいね」
「こっちはゴミが散乱してたぐらいだね～」
「おっかしいな～…ここら辺に落ちたと思うのに…」
「４０４の方はどうでしょう？」
　Ｍ４は４０４小隊隊長、ＵＭＰ４５に問う。
「…こっちは完璧に何にもないわよ。
　そのせいで、４１６がヤバい事になってるわ」
　そう言いながら、指を差す。
　ＡＲ小隊がその方向を見ると…
「私は完璧。そう完璧。完璧な完璧。完璧完璧完璧。絶対、亡骸は亡骸は…」
「……よし、見なかったことにしよう」
「「賛成」」

　その後、特別な機器を用いて周囲を調べたが何も見つからなかったという。遺体がな

く、血痕も付いてるが足跡が何故か見つからなかったため、生きていると仮定し、グリフィンは調査を諦め終了した。

ｓｉｄｅ　～佐藤～　拠点

「ふ～、死ぬかと思った」

ガチめに死ぬかと。いやね？十二階ということを忘れてたし、ま？多少はね？

だけど、まさか跳んだあと、なぜか起きた上昇気流で落下が遅くなって、ゴミ捨て場のゴミに足から着陸するとは……。しかも、人生、何があるかわかんねえな。しかも、ガラスも刺さらなかったから無傷だし。

落とし物も一つもないし、近くにターミネーターを乗せて待機させたハンヴィーがあって良かった。

しばらく、コソコソと傭兵業を続けるか。見つかりそうだし。あれまて、

「基地の場所バレてないか？」

あ、声に出ちゃった。

「記憶ハ消シテアル。心配ハイラナイ」

「お、おう」

ちょっと万能すぎんか？
いつの間にやったんだよ。まあ、いいや。
というか、あ○きバーうめぇ。あ○きバー食べながら一人で拠点周囲を散歩ついでに変わったことでも探すか。

「お菓子ちょうだいお菓子ちょうだいお菓子ちょうだーい！」
「えぇ～（困惑）」
歩いてたら、死にかけていたＩ．Ｏ．Ｐ社製戦術人形らしき者を見つけた。
んで、助けようと声をかけたらお菓子ちょうだいとか言ってきた。
あ○きバーを一本あげるか。あと二本あるし。
「…ほらよ。あずきバーだけど」
「あずきバー!?じゅるり…」
「硬いから気をつｋ「いったーーー!?」……大丈夫か？」
「歯折れひゃかも～…」
「…まあ、ぱっと見折れてないし、大丈夫そうだな」
このあずきバー、日本の井○屋のあ○きバーモドキだしなぁ。井○屋のあ○きバーは、キンキンに冷えた状態ならサファイアの硬度を超えるらしい

しかも、クーラーバッグ入てたやつだし。
「なあ、名前はなんて言うんだ？」
「ＦＮ　ＦＮＣというよー。よろしくー　がりがり…」
「ふむ、じゃあＦＮＣは何であそこで死にかけてたんだ？」
これ。普通に考えれば、ここら辺は鉄血の支配地域の近くじゃないしな。
「うん？それはね～……」

んで、話を要約するとこうらしい。
まず、ＦＮＣの所属していた基地はいわゆるブラックで散々な扱いを受けていたらしい。
作戦中、見捨てるのは当たり前。失敗をしたら不良品と罵られる、ストレスのはけ口などなど。
そんで、そんな環境だからか逃げる人形も多数。ＦＮＣもその一人らしい。
だけど、基地から逃げたとしても指揮官（クソ野郎）の雇った傭兵達に捕まり、傭兵達に遊ばれるか、基地でもっと散々な目会うらしい。
ＦＮＣは幸運にも傭兵からも逃れられたらしい。その後、数日間死ぬ気で走ってたら

エネルギー不足とオーバーヒートでここら辺についさっき倒れたらしい。
聞いてて胸糞悪くなった。
「こっちに来るか？」
「…いいの？帰って、お菓子食べても、いいですか…？」
「いいさ。お菓子位いくらでもあげるぞ？」
「ほんと!?」
「ああ。じゃあ、今すぐに帰るか」
「…もう一本食べてからでいい？」
「すぐ近くだし、食べながらな」
「わぁーい！」
…外見と相まって子供みたいだな。
ったく、目の前に例の指揮官（クソ野郎）がいたらぶん殴りてぇ。
その前に、ＦＮＣ用の弾薬とお菓子を買わねえとな。

都市防衛

佐藤ｓｉｄｅ　とある地区の都市

お、着いた着いた。

ここまで着くのに結構時間がかかったわ。

都市防衛依頼かぁ～。

いきなり来たからすぐさま出発したせいで、ＦＮＣが空腹で死にかけてる。

一様、移動中に結構お菓子食べてたよな？

「うぅ…」グゥゥゥ

カチャ「大丈夫か？カロリーバー要るか？」

「ありがとうございます……。

ところで、何で戦車でここまで来ようとしたんですか!?」

「まあ、万が一に備えてな」

なんかあったらすぐさま主砲をぶち込んでやるぜ。

「ふ～ん。まあ、指揮官ほどにもなると狙われるから？」モグモグ

「それもあるが、お金が余ってたというのが一番の理由だな。

というか、なんで指揮官と呼ぶんだ？俺は指揮官の器なんて無いぞ」
「いやいや……。だけど…なんでだろう？」
……Ｔ―６００が弄ってそう認識するようにしたのか？
まあ、いいや。害はなさそうだし、依頼に集中しよう。

高層ビル屋上

「４５姉。目標を見つけた」
「ホント？…これは作戦を練り直した方がいいかしら」
「とりあえず、バレないように身を潜めたほうがいいわね」
「ｚｚｚ」
「起きろ!!」
「フギャ!?」
「…はぁ。暗殺任務中ではあるのにね」
「そうだよね～。どこからか嗅ぎつけたのか、傭兵を集めてるし」

「だけど、目標がもし本格的に私たちに攻撃を開始したら…」
「そうね…ッ!?え!?」
「４５姉?…あ、え!?」
まあ驚くのも無理はないだろう。
まず、超重装備のＴ―６００が都市に現れた。
ここだけ見ると、慣れている人”佐”のつく傭兵等には大したこと無い。だが、現れ方が問題だった。
戦車に乗って、颯爽と現れた。
繰り返す、重武装のロボットが戦車に掴まってやってきた。
戦車の周りにいた人も驚いているのが遠目でみても分かる。

「あの戦車って…サトウさんのじゃ……」
「えぇ…」
「ゆっくり寝れそうだね～…ｚｚｚ」
「…戦車で普通に街に来るはずがない。強いて言うなら……依頼、かしら?」
「多分…そうね４１６。任務が大変になるわね…」
今後の、暗殺任務が気になる　４５　であった。

佐藤　ｓｉｄｅ

…。

……。

さっきの場所からは移動したが…

びっくりするぐらいやる事がない。

戦車で来た意味ないじゃん。※普通、戦車で来ません

周りを見てると、結構賑わっている街だな。

ん？

今、ＵＭＰ９だっけか。いなかったか？

お、いた。目も合ったなこれ。

他のメンツもそろって、高層ビルの屋上で何やってんだか。

まあいいや。依頼に集中するか。

ギュルルル…

「…これで何か買ってきていいぞ」スッ

「やったー！」
ビューンって行きやがった…
依頼が手ばせないから財布渡したが……
だいじょb
「もどりましたぁ！」
早っ!?
想像より早く財布は戻ったし、いっか。
「モグモグ…」
癒される。その一言に尽きる。
最近、荒れたことしかなかったからなぁ。

ドオーーン!!!
そうそう、遠くからくる爆発音もすばらs
は?
…。
戦車か。
戦車じゃねえか!?

街中で主砲撃ってんじゃねぇよ！
突然のことで驚いてしまった。落ち着け。餅つけ。
いや、餅ついてどうする。

Ｔ―５４戦車か。
テロリストっぽい輩も近くにいるし、テロリスト関連だろうな。
しっかしまあ、骨董品レベルだが戦車なんか手に入れたな。
こっちには気が付いてない。
なんにせよ、都市防衛の依頼で来てるから片付けるか。
俺は、無言で照準を合わせ、１２０ｍｍＡＰＦＳＤＳ弾を発射した。

高層ビル屋上

「え、え～…」
「慈悲がないわね…。戦闘という名の作業よ…」

一連とその後の佐藤達の行動を、４０４小隊は見ていた。
テロリストが街を征服するために、手に入れたであろう戦車、Ｔ―５４は
正面装甲から後面装甲まで、過貫通を引き起こされ、その価値をなくされた。
そして、残ったテロリストは自分達の戦車が突然、破壊されたことに驚いた。
しかし、余念がないうちにＴ―６００の重火器により一人一人命を落とす。
流石に、都市の征服より自分の命が惜しいため、
生き残っているテロリストは我が先にと逃げ出していく。
それを助長するような制圧射撃。
テロリスト達の都市を制圧するという心は粉微塵に砕けた。
「そういえば」
ＵＭＰ９が話を切り出した。
「ここから、佐藤さんと目が合った……」
「「え…」」
４０４小隊は本当に、佐藤超颯一人郎を敵に回してはいけないと思った。

「あ～…、またやらかしているね。佐藤君……」

ニュースごしに、どこかの科学者は呆れながらそう言った。

災難と依頼

なんかまた、呼び出されました。佐藤です。
グリフィンにＩ．Ｏ．Ｐ．の１６Ｌａｂの人も来る、だそうで。
俺、なんかしたか？※テロ組織を潰した
それに、横でメッチャ監視と案内をしているＡＲ小隊の眼光が……ね？
ＦＮＣも引いて…
「チョコ食べます？」モグモグ
「…いいんですか？」
「私も～！」
ないな。それどころか、お菓子まで配る始末。
「指揮官様もどうぞ！」
「お、ありがとうな」
まあ、ＡＲ小隊からの圧が収まったし。終わり良ければ総て良し。
ぶっちゃけ、終わりはまだし、まず用法が違うが。
……Ｉ．Ｏ．Ｐ．の１６Ｌａｂ、知人がいた気がする。

もう亡くなった、リコリスが紹介してくれた、ペルシカだっけか。
ペルシカの元に案内している気がしてきた。いや、絶対そうだろ!?
というか、あいつら

〝〝リコリス、サトウを拘束したいからエリザを起動していいかい？〟〟
〝〝生憎、娘を死なせたくないから無理だ〟〟
〝〝そう……。じゃあ、対サトウ用の…〟〟
〝〝ＡＩか。共同開発はいつでも受け付けるよ〟〟
〝〝そう…〟〟

みたいな会話を聞いたことあるから逃げたくなってきた。
よし、逃げよう（即行）。こっそり逃げればダイジョブだろ。
そうしたらどうやって逃げｒ
ドカァーーーーーーーン!!!
「なあにぃ!?」
「はい？」
「えっえっえ？」

いきなり、床が抜け落ちた。
ちょっと待て!?このビル傾いてね?さっきの爆発音といい、どうなって……
あ、鉄血だ。あるぇー?
要塞砲らしきものがある。こっち向いてるし。
しっかし、いつの間に…
っと、この状況で生き残ることに集中するか。
まずは、ＦＮＣを抱えるようにして捕まえる。
「え、指揮官様!?何をやって…あったかいなぁ」
で、着陸態勢に入る。
「このままじゃ死んじゃいます!……」
なんか、ぼやいてるが気にしない。
両足で着陸して、ＦＮＣを傷つけないように五点接地のように地面を転がる。
ズサァ!!
「……危ね～。最後の最後でミスりかけた」
「あわわわ…」
「ん?……離れろ!!」
「え、ぐぅ!?」

ＦＮＣを突き飛ばすと同時にそこに、銃撃がとんでくる。
おうふ。鉄血ハイエンドが来る気がする。
「あなたに死を届けに参りました…」
ほらやっぱり。って、え？
「おいおい、ハイエンドモデルは聞いてねぇぞ」
「あなたには死んでもらはなければなりません」
「は？冗談はやめてくれよ」
「冗談ではない」
もうヤダおうちにかえりたい。
「そうですね…冥土の土産に私の名を教えましょう。
私は代理人（エージェント）。鉄血ハイエンドの中でも上に位置する存在です」
「そうか。ところで周りはドンパチしてるし、こっちはエージェントとかいう奴が来るし、
俺が何をしたって言うんだ」
「あなたは、自覚をしてないのですか!?こっちのハイエンドモデルを三体も破壊しといて!!
あなたのせいで、ご主人様も私も胃が痛い！どれだけ苦労したｔ」

ドガーーーーーーーーン!!!
突然、エージェントが爆発した。
いやこれ、戦車砲だわ。ってことは…？
「へ？せんしゃ～？」
あ、ＦＮＣが混乱してる。
「ＦＮＣ」
「は!?はい！なんでしょう！」
「鉄血を片付けに行くぞ」
戦車に軽機を積んでたな。持ってくるか。

ＡＲ小隊　ｓｉｄｅ
「ああ、もう！なんでこんなにもいるのさ!?」
「口より手を動かせ。ＳＯＰＭＯＤ」
ダダダダダダダダダダ!!…
「サトウさんか。結構古い銃を使ってるのね」
「だが、おかげか敵が減った。チャンスだな！」

鉄血の制圧完了した後、佐藤（乱数調整機）は、ＡＲ小隊に破壊されたグリフィンのビルの代わりに、小屋に案内された。

「この度は誠にありがとうございました。また、この間のことを謝罪します」

「いえいえ、構いません。何なら、その時割ってしまったガラスを弁償したいのですが……。

ビルが破壊されてしまったので、代わりにビルを建ててもよろしいでしょうか」※ガラスの代わりにビルを建てるらしい。ゑ？

「はい？（こいつは何を言ってるんだ…）」

ヒソヒソ　　ヒソヒソ

「……ま、まあお好きなように」

え？俺なんか変なこと言った？

と、言いたげな顔をしてる佐藤（ハヅ）をよそにクルーガーは話を続ける。

「ゴホン、本題なのですが、あなたに依頼として…我が社の指揮官になってもらいたいのです。

と、言ってもあくまで人員がそろうまでの間、基地に居るだけで良いです。」

「そうですか。準備の時間をくれればすぐにでも行きますが…」

「ありがとうございます。あと一つ、Ｉ．Ｏ．Ｐ．社からあなたと話したいという方がおりまして。

どうぞ、入ってください」

「はいはーい、久しぶりだね。サトウ君」

「やっぱお前か。ペルシカ、数年ぶりだな」
　さらっと、友好的に会話してるのは予想外なのか、グリフィン陣は固まっている。
「そうだねぇ。君はクルーガーに敬語を使わせるほどになるとは」
「いや、違うと思が…」
「〝不死身の傭兵〟と呼ばれてるの誰かな？」
「軍から言われた時は驚いたが」
「そ、そうなのですね。こちら話は以上です。ペルシカからはほかには」
　やっと、クルーガーは復活したようだ。
「私はもう無いね。ただ単に、サトウと顔を合わせたかっただけだよ」
「そうですね…私が着任する基地の情報が欲しいのですが…」
「これですね、どうぞ」
「はぇ～……ありがとうございます。こっちも以上です」
「分かりました。これで、話は終わります」

　アホ面を微妙にさらした佐藤は、グリフィンから依頼を受けた。
　はてさて、この先どうなることやら。

指揮官（仮）になりました

F―22基地　滑走路周辺

「ねえ、FNC。仮の指揮官はそろそろ来る？」
「多分～？」
「なんで、疑問形なのよ……。一様、指揮官より先に来たから知ってそうなのに」
「だって、先に行ってこいって言われたんだもん」ピコピコ
「だからって戦車（神器）に乗せ、自動走行させることは無いと思うけど……」
ゲームボーイで半永久的にテトリスをしているFNCをよそにチラッと横を見るUMP45。
そこには、稀に見る伝説佐藤とかいう奴がよく使っているM1A2SEP（装甲値6）エイブラムス（5）戦車（5）がある（3）（6）。
UMP45は佐藤（乱数調整機）の経済状況が気になるようだ。
「こんにちは～、FNCさん。45さん」
「こんにちは～」

「あら、こんにちは。カリーナさん」
「しっかし、だだっ広いですねぇ。ここは」
「たしかに、もともと軍飛行場だったらしいし。滑走路あっ…（察し）も残ってるのよね。飛行機があればまだまだ使えそうね」
ゴオオオオオオオオオオオオ……
　ＵＭＰ４５の言葉に合わせるが如く、
　いまじゃあまり聞けない、爆撃機と戦闘機らしきものが爆音を立てながら飛翔する。
「そうそう、あんな感じの爆撃機とか戦闘機とかね。あれは多分指揮官のかしら」
「あれはＢ―２９とＦ…何とかですっけ…。あれ？いや何で飛んでるんですか！あんな古いものなんか戦争の影響でないはずですよ!!」
「Ｆ―３５Ｂかしら…まさか、指揮官の？Ｂ―２９は持ってたはず……。でも、その他の航空機は持ってなかった。買ったのかしら」
「なんであなたたちは冷静なんですか!?さっきから指揮官、指揮官って。配属される指揮官の素性※ただ（金と運をもっただけ）の傭兵です。を知りたいのですが!?」
「まぁまぁ。お菓子でも食べて落ち着きましょうよ！」ピコピコ　つチョコ
「何この雰囲気…」
　カリーナ　は　こんらん　している。

「着陸しそうね」
「え？」
Ｂ―２９は普通に着陸態勢に入る。
一方、Ｆ―３５Ｂは減速し垂直着陸をする。
目の前に着陸したＦ―３５Ｂからグリフィンの制服を着た指揮官らしき人が降りてくる。
その後ろでは、Ｂ―２９からＴ―６００が何体か降り、整備を始める。

佐藤　ｓｉｄｅ
ガチャ
よっと、着きました。
なんか、基地に滑走路があるということで、Ｂ―２９とセット販売ここ重要のＦ―３５Ｂ持ってきたというか、乗って来たけど普通に余裕しかないなここ。
というか制服に慣れないな。
まあまず、そこにいる人に自己紹介しないとな。
「こんにちは。この度、基地に配属されました佐藤颯一郎です。よろしくお願いします。」

「こ、こんにちは。わ、私はか、カリーナと申します。よろしくお願いします」
え、うそん。めっちゃ引かれてるんだが。なんかしたか俺!?※普通、滑走路があるという理由だけで爆撃機を連れて戦闘機で来ません。
……名前は覚えとかないとな。カリーナっと。
「こんにちは。ＵＭＰ４５です。サトウ仮指揮官、仲良くやりましょう～」
…なんでいるだよ。４０４小隊全員いるなこりゃ。あっちにＦＮＣもいるな。ゲームしてるし。
まあいいや、案内頼むか。
「早速ですが、基地の案内を頼めますか？」
「は、はい！」
基地の中が気になるところ。
「あ、待って待って。テトリス、まだ終わってないよぅ！」モグモグ
「私もついてくわ～」
お前らもくるんかい。

＝＝＝＝＝＝＝

射撃練習場

「こ、ここが射撃練習場です。あら？誰かいますね」
まず、射撃練習場に案内されたと思ったら人か人形がいるらしい。
「メンテは丁寧に。どんな些細な問題も許さない。」ブツブツ
…なんか、触れてはいけない気がする。
「４１６」
「…なによ」
「指揮官が来たわよ」
「！」
こっち向いたし。というか４５、ＧＪ。
心なしか空気が澄んだ気がする。
「こんにちはＨＫ４１６です。ちゃんと覚えてくださいね、指揮官。」
「ああ、こんにちは。知っていると思いますが佐藤颯一郎です。よろしくお願いします」
多分、いや絶対知ってると思うがとりあえず自己紹介。
「…指揮官」
ん？
「口調はいつも通りで大丈夫です」
「私も同意するわ」

「私の指揮官にもどってぇ…」
変だったのかよ。戻すか。
というか、ＦＮＣが変になってない？
「変だったんなら早く言ってくれ…。こんな感じでいいか？」
「ええ……。ところで指揮官。撃ってみないかしら？私は完璧だけど指揮官はどうなの？」
る？
＝＝＝＝＝＝＝
「嘘よ…こんなの…」
「４１６…なんかごめん」
「やったー！」エッヘン!!
ええ…（困惑）
あの流れから俺含め、カリーナ以外が各々の武器を使い、的当て的なのをしたんだが……。
俺が満点※全弾ヘッドショットレベルを取り一位、ＦＮＣが一部ミスをし二位。
４５は僅差で４１６に勝ち三位。残る４１６が最下位。

「あ、ああっと。案内の続きを頼む」
「了解しました…」
逃げよ。放置で（無情）
まあ、調子乗ってた感じするし、成長の糧になるだろ。
「はっ!?まさか指揮官のＡＫに秘密が…」
ねぇよ。

執務室

あの後、食堂行ったり、宿舎、私室、執務室に案内された。
食堂の飯は……まｚ…いや、そんなうまくはなかった。
というか、用務員的な自律人形とかは結構いたが、戦術人形があんま居なかったな。
ＦＮＣと４０４小隊のみ。仮だしこれが普通なのか？というか、秘密小隊である４０４小隊をを持たしてくるのはどういう意図があるのか知りたい。
案内ついでにカリーナのショップで買い物もしたが、とりあえず買えるもの全て買ったらなんか、一転して、カリーナの目に＄マークを見えたのは幻覚だと信じたい。

とりあえず、仕事的なのをするか。
なんか、普通は書類仕事があるが、俺が特例なせいでその書類やらがないんですよ。
だからと言ってサボるわけない。依頼を受け、裏切ることはあまりしたくないしな。
改善できるところを改善するか。
まずは、飯。
お世辞にもうまいとは言えない。全自動で作る機械（２０４１年製）はあるが、食材も機械（ダークマター）（ダークマター生成器）もちょっとねぇ…。
そういえば、９や４５が美味しい美味しい言いながら、食べているのはぶっちゃけ引いた。
とりあえず、俺のポケットマネーを使って、通販で天然食材（金塊）と調理用の人形買うか。
ポチポチっとな。
次、設備。
設備というか人形の宿舎か。
良く言えば、シンプルイズベスト。悪く言えば、段ボール。
こっちもポケットマネーで家具買うか。
ついでに何かあってもいいように、タレットと対空砲を買っとくか。
次、備蓄。

燃料と弾薬、レーションだな。
ＡＲとＳＭＧの弾薬はカリーナのショップで買ったし大丈夫だが、
タレットと対空砲、戦闘機、戦車の燃料は買ってない。探せばあるかもしれんが。
ポチポチ

…。

……。

あれ、やる事もうなくない？
まあ、明日タレットやら配置しないといけないし、燃料、弾薬、レーションを運ばないといけないし。
もう寝ても文句は言われないだろ。
基地を散策してから寝てもいいな。

指揮官（仮）になりました　拠点散策

なんやかんやあって指揮官（仮）になった佐藤です。基地の改善（という名の要塞化）が終わったんで、適当に散策という名のぶらついてます。

というか、昨日は死ぬかと思った。いやだってカリーナがやっていた仕事を手伝ったら思ったより量が多かった。二人でやって０時までかかったわ。何だったんだあれ。

グリフィンってまさかブラックか……？闇に触れそうだし考えるのをやめるか。

…ここどｋ射撃練習場か（兆速理解）※”兆”速で理解したようです。

ダンダンダン!!

誰かいるな。誰だろ？

「私は完璧。かんぺき。カンペキ。なら指揮官より上に行けるはず。なんでなんで……」

……なんだこれは…たまげたなぁ。

ん？（現実逃避）よく見たら４１６の銃のカスタム使いやすそうだな。ちょっと使ってみたい。

他にも、ＦＮＣやＭ４とかの西側系の銃を使ってみたいものだな。
まあ、いつかでいいや。散策を再開するか。
ゴンッ
あ、足ぶつけた。痛みはないし大丈夫だｒ「あら、指揮官じゃない。どうしたのかしら。まさか私の銃を……」
おうふ…まあ話は合わせとくか。そういう気持ちはあったし。
「まあそうだ。良ければ撃たしてくれないか？」
そう言い、４１６を持たしてもらう。
「ふふ…まさか私を選ぶなんて……」
嫌な予感しかしない。
おっと、ＡＫを懐に入れっぱなしだった。仕事柄持ってないと落ち着かないだよなぁ。
でも、ＨＫ４１６を使う上に邪魔になってしまうから、４１６に持たせとくか。４１６４１６ややこしいな…。
「すまん。俺のＡＫを持っててくれ」
「……わかったわ」
なんだ今の間は。まあいい。

このカスタムされた４１６、見た目通り結構フロントヘビーだな。フロントサイトにホロサイトが重なるカスタムの仕方も面白い。サイトを覗いてみると、意外と狙いやすい。これにブースターつけたら多少の遠距離もいけそうだな。

的に撃ってみるか。

ダンダンダン!!

とりあえず、三発撃ってみた。

うん。これを機にメインアームを変えようか迷うな。

俺のＡＫは一般的なサイトすら乗せてないというか乗せられないし。無理やりピカティニーレールをポン付けしてもいいんだが…。

「指揮官。あなたの銃ってすごく軽いんだけど……」

「まあ、それはパーツも大部分を軽合金にとっかえてるからだな。軽さ以外度外視だが」

銃身とかの一部除いたパーツにチタン合金やらアルミ合金やらマグネシウム合金、なんならベリリウム銅とかいうやつも場所ごとに分けて使っているからな。

普通は銃に適さない材料を無理やり使っているが、強度、耐久性度外視なかわりに、軽合金※ただし、ベリリウム銅は除くをふんだんに使っているからメッチャ軽い。最悪、パーツは消耗品扱いでいいしな。

「そう…それで、私の銃これから使ってくれる？そうよね？」

圧がすごい。だけど、たった今メインアームを変えるのもなぁ…

「取り合えず、検討はしとくな」

「その日まで待ってるわ。いつまでも」

ダメみたいですね。逃げなきゃ（使命感）

「…そういえば、カリーナのとこに用事があったことを思い出した。ほい、４１６だ。とりあえずＡＫを返してくれ」

「それなら仕方ないわね。どうぞ」

「ありがとナス！。じゃなかった…まあ、ありがとう。それじゃあまたな」

俺は逃げるように立ち去った。

「指揮官さま～……お菓子いください～…えへへ…」スリスリ

かわいい。

「ほら、チョコだ」

「もぐもぐ…」

かわいい。

「もぐもぐ…」
　かわいい。
「かわいい」
「えっ」
　声に出してしまった。事実だしぃ？別にええやろ（適当）
「かわいいって…かわいいって…えへへ…」
　はいかわいい。優勝。
　…俺は何をしているんだ（賢者タイム）
　まあ、いいや。
「…」ナデナデ
「ん…」
　あぁ～
　たまにこういう風に癒されるのもいいわぁ。萌え死ぬけどな。いや萌え死んでもいい。
「もぐもぐ…えへへ」
　愛でたい。
「あら、指揮官…とＦＮＣね」

まないｔ…４５か。
「指揮官？今よからぬこと考えなかった？」
「？」
「いや、何も。ＦＮＣについて考えてただけだぞ」
咄嗟に嘘をつく。これ弄っちゃダメなやつだこれ。
「そう。そういうことにしとくわね」
助かったのか？
「４５さん！チョコ食べます？」
「…あら、ありがとう。いただくわ」
大丈夫そうですね。
「もぐ…ゴクッ……ＦＮＣこれ何で作られてるの？」
「材料ですか。指揮官は何か知りません？」
材料う？適当に”カカオ使用”って書いてあるやつだった気がする。
「カカオ使用って書いてあるやつを適当に買ったから俺もよく知らないな」

「は？」

「え？」
ええ…（困惑）。なになに、何で固まってんの？
「え、嘘よね…詐欺商品でしょ天然品なんて使ってるわけ……」
４５がすぐさまチョコの包装のラベルを見る。
「嘘…有名な製菓会社の高級板チョコじゃない…。どういう手口を使ったら入手できるのよ…」
知らん。それは通販サイト（万能サイト）を運営してるゼロ社に言ってくれよ。
「え、あの指揮官様？なんかすいません……」シュン
「いや、悲しまないで!?…まあ、入手経路は秘密だが。合法であるとは言っておく」
一様合法、なハズ。多分、きっと、メイビー。
「そう…」
怪しまれてますねクォレハ…。ま、多少はね？
あの通販サイト、限られた人しか知らないしい？使わないしい？
まさか、４０４小隊がここにいる理由ってそういうことか…？
拉致監禁拷問に気を付けとくか。一様、そういうことする部隊だしな。

＝＝＝＝＝＝＝

ＵＭＰ４５　ｓｉｄｅ

今日はいろんなことがあった。

要塞のようにタレットや対空砲が置かれ、食堂はちょっとした改装が施され、専用の人形が担当していた。ご飯もあり得ないぐらい美味しかった。

指揮官がＦＮＣとかいう人形を可愛がっているところも見た。さりげなく会った風にして接触したけど。心が痛かった。

いつからか、佐藤颯一郎。つまり指揮官のことを考えたりすると幸せになれる。

でも、私を可愛がってくれない。いや、あの”人形”がいるからか。なら指揮官を監禁すれば……。なら、早めにしとかないと。他の”人形”にとられちゃう。

フフ…待っててね、シ、キ、カ、ン？

ちょっと散策（依頼）に行ってきます。

只今の時間、深夜の０時。

久しぶりの依頼が来たみたいだぜ。テンション上がるなぁ～。正規軍からだけど。

※逸般の誤家庭を持つ傭兵の特権です。

え？　グリフィンからの依頼続いてるだろって？

一日で戻れば大丈夫だ。実際すぐに終わるような内容だし。最悪責任を正規軍に押し付ける。

準備は終わったから、書置きを残して、みんなに見つからないように基地を出れば大丈夫だ。

カキカキ

よし。じゃあ、イクゾー！　デッデッデデデデ！　（カーン）デデデデ！

＝＝＝＝＝＝＝

そこら辺の遺跡

深夜だし周りが少し暗いな。そんなことはどうでもいいが。
というか正規軍。なんで遺跡の調査を依頼してきたんだ？　しかも、大雑把でもいいって。
あいつらのことだ嫌な予感がする。
ま、とりあえず依頼を遂行するか。内部の写真と状況を調べときゃ大丈夫だろ。
「指揮官様、はやく中に入ろうよぉ」モグモグ
は？
る？
「なんでお前いんの!?ＦＮＣ!?」
「寝れなくて外を見ていたら、指揮官様が外を歩いてるのを見つけたのでついてきちゃいました」
おうふ…基地を出るのを見られたか。しくじったな。
ま、多少はね？（適当）　お菓子（賄賂）で黙らｓ…静かにさせとけばいいだろう。
「はぁ…後でお菓子やるからこのことについては黙っててくれよ」

「言われなくても付いてきますよ！」

え、付いてくんの？

…。

まあ、いいや。

さてさて、中に入りますか。俺は懐中電灯を点ける。これは、銃にフラッシュライトがついてるが光量が足りない気がしたから、基地の倉庫にあったものを拝借した。

んなこたぁどうでもいいが。はぇ～遺跡の中って以外に広いんだな。しかも、近未来的な造りをしてる。写真撮っとくか。

カシャ

先に進むか。

コツコツコツ…

ん？扉があるな。入ってみるか。罠がありそうだがな…

自動ドアかこれ。取っ手ないし。無理やり上にあげてみるか。

ギィィ…

開いた開いた。やっぱスライド式だったのか。中には……スイッチやらレバーやら

が大量に付いている装置がある。なんだここ。装置に文字っぽいのがあるので、近づいて見てみると、なんだこれセンチネル語？いや、センチネル語の文字しらねぇわ。まずセンチネルに文字なんてあったっけ？

そんなこんなで、変なことを含め、熟考していると…

「えい！」

ＦＮＣが装置に付いてる一番大きいレバーを下げた。おいおい…と思っていると機械の始動音が聞こえ始め、照明か何かが付いたようで、辺りが明るくなった。やったぜ。

「おっ、ありがとなＦＮＣ」

「人形ですから！」エッヘン

それは関係あるのか？まあ、明るくなったし。

というか、ここ発電室的なところだな。燃料は残ってたのか……オーパーツってすげぇ。

写真撮って…っと

カシャ

ここには他に何かなさそうだし、出るか。

お、遺跡内全体が明るくなっている。やっぱ明るいっていいわ。

さてさて、近くにある扉の所に行くか。

…

ウィーン…

「基地のドアを全部を自動ドアしようかな」

「そ、そうですか」

何その、ゑ？　みたいな目は。便利そうだし別に良くない？

まあいい。で、この部屋は……。ホログラムの地図？いや、地図だわ（確信）。どこの地図かわからんが。それと、ボタンが大量に付いている。またかよ。よくわからない文字もセットだし。

ポチっとな。

「ありゃ…？ヤベ、どっかにクレーターができたかも」

「え？」

これまさか、兵器か…？

まあいいや。俺の勘（第六感）が大丈夫って言っているし。

カシャ

他はなんにもない。正規軍がこんな直ぐに済む依頼なんて出すのか？

怪しいですねぇクォレハ……。

ウィーン
「他に行くところがないな。少し奥に続いているが何もないし」
「こういうのって、大抵隠し通路とかありますよね」
「確かに」
それはあり得ると思うが…。
細かい所は別にいいだろ。
「まあいい。取り合えず、外に出るぞ」
俺達は外に出て出入口に移動している最中。
突如、床が消えた。
「うお!?」
「あ!?お菓子が！」
言ってる場合か!?ＦＮＣの腕は掴めたが……。もう、壁に手を引っ掛けるしかねぇ！
懐中電灯は捨てるしかないな…。
おらよっ！
ズボォッ！
ナニコレ。運よく手が入ったと思いきや隠しスイッチか？
ゴゴゴゴゴ…

隠しスイッチでした。俺の正面らへんの壁が動いて、入れる場所ができた。
「ＦＮＣ、持ちあげるからからそこに入ってくれ」
「は、はい」
よいしょっと。
入ったからヨシ！俺も入るか。
「よっと」
はぇ～。下が見えねぇ。これは死んでたな。
「どうぞ、指揮官様。懐中電灯です！」
「ん？ありがとうな」
捨てたと思った懐中電灯をＦＮＣが持ってた。キャッチでもしたのか。
さて、奥に進んでみるか。絶対何かあるだろ。

一方そのころ基地では…

「スゥ～……はぁ～…朝(午前1時)の指揮官の匂いは最高だわ」
ただの変態(UMP45)が朝の一服を堪能している。
っと、ここに…
「４５。私も混ぜなさい」
今度は、変態(HK416)2号が来たようで。
「いやよ。４１６はあっちに行って「そう…指揮官の下ｇ」やっぱ、ここに居て」
…。
「指揮官を監禁しようかしら」
「そのときは手伝うわよ」
「スゥ～…ありがと。早く私たちのものにしないとね」※佐藤に買われる方が現実味を帯びています。
不穏な会話がしましたが、グリフィンは今日も安泰(危殆)です。

雪原に来ました。

とある雪原

ココハドコ？　アタシハダアレ？

いや、真面目にここどこだよ。遺跡の謎の機械を起動して上に乗ったらここにテレポートよ。なんでこうなるんだよ。軍からの旅行チケット（強制）プレゼント（シリアベ）キャンペーン（送還）か？

さて、現実逃避してる場合じゃないな。というか寒い。

吹雪とかは降ってないがとにかく、風をしのげる場所を探さないとな……

って、ＦＮＣいないじゃん。大丈夫だといいが……

＝＝＝＝＝＝＝＝

ダン!!

こいつで最後か。というか、なんで鉄血人形がいるですかねぇ…まさかの鉄血勢力区

域かここ？
数時間移動してその後すぐ戦闘は流石に疲れた。建物で休みたい。
ん？パツキン…金髪の少女が倒れてる…だと？　助けるか。ここが鉄血勢力区域の可能性が出てきたからな。
お、近くに建物もあるじゃん。今日（いつも）、ここだけ（大抵）は運がツイてるな。少女よ、生きててくれよ……

＝＝＝＝＝＝＝

さて、建物…というより廃墟に担ぎ込んだがこの少女、というより人形と言った方がいいのか？生きてはいるが、地味にダメージが酷い。
左腕が肘から先がなく、右足が無く、左足は有り得ない方向に曲がってる。幸い、人工血液は傷が塞がったのか流れてはないが、何があったんだよ。とりあえず、この子の

物らしきウシャンカと拳銃は近くに置いとくか。

うーん、これからどうするか……この子を一人にさせたくないが、廃墟の中を探索するか。以外に内部が広いんだよなここ。動作停止した人形が居たら、合いそうなパーツとって少女に付けてみるか。できれば、帰れる手立てがあるとなおよし。

というわけで、探索探索。まずは一番近いこの部屋！

えっ（困惑）なにこれは。岩に刺さった聖剣の如く、死体に銃が突き刺さってる。窓からの光もいい感じに入ってそれっぽさ満載。いや、事件現場だわ。腹部に突き刺さっていて、そこら辺だけグロいな。

ただし、聖剣ではなく、ただの銃である。引き抜くか。

グチョリ…

音ぇ……まあいい。この銃はＡＫに似ているな。弾は…ショットシェル？まさかのショットガン？てことはＳＡＩＧＡ辺りの銃か。

持っていくか。無駄に重装備（ＡＫ九九式軽機盾）で来ているが、持って行っても支障は出ないだろう。

他には……この死体、人じゃなくて人形か。Ｉ．Ｏ．Ｐ．の戦術人形だと思うが、この廃墟で何があったのか気になって来た。このＳＡＩＧＡ、銃身自体が人形に突き刺さってたし。わけがわからないよ。

…まて、冷静に考えればこの銃はこの人形のでは？だったら、なぜ銃を奪って突き刺

した？銃剣すらついてないのに。

　考えてもしゃあないか。さてさて、この人形を部品取りにでもするか。工具がない？最悪、手と指があればいけるってリコリスとペルシカが言ってた。

　その前に、黙祷。

「だ、誰ですか？」

　さっきまでピクリとも動かなかった人形の方から声が聞こえる。

　えっ、動いてるの？まさかに気絶してるだけだっただけ？

「…生きてたのか。それはすまないことをした。立てるか？」

「あ、はい一応。ところで傭兵？さん。あなたは……」

「俺か？俺は佐藤颯一郎。しがないフリーな傭兵さ。ちょっと依頼をしてたらいつの間にこんな雪原に来ちゃったがな」

「そうですか…私はイズマッシュ・サイガ12です！」

　お、やっぱサイガか。立てるってことは意外にもダメージが少ないのか？

「進路上のゴミは、ワタシが掃除させてもらいます！って、服にこんなに汚れがついっちゃてる…」

　腹がグッチャグッチャ一歩手前なのにこんな元気って。ショットガンってすげえ。

痛覚とか切ってるのかもな。
などと、自分の中で疑問を解消してると。
「そうだ佐藤さん。できればでいいんですが…助けてください。部隊の人とはぐれちゃって…」
「まあ大丈夫だが……俺が怪しい奴という可能性があるぞ」
そうだよ。このご時世、警戒心はないとすぐ死ぬし。
「え?サトウさんはF―22基地の派遣指揮官ですよね。噂は聞いてますよ!鉄血ハイエンドを四体案山子、処刑人、代理人の他に鉄血基地爆撃時にもう一体破壊したとか、鉄血基地爆撃したとか、正規軍と深い関係があるとか、不死身だったり、遺跡から出た兵器自身と聞きました!噂ではもっと恐ろしい人どと思いましたが、そんなことないですね。」
「お、おう。そうだぞ〜」
前言撤回、最低でもグリフィン内では知られてるようで。というか噂の方が気になるんだが!?
聞いてる限り…半分以上合ってそうな噂だな……
あっそうだ。
「そういえば、ここに入る前に人形を拾って運んできたんだが…同じ部隊だったりしな

いか？」
「もしかしたら、ですね。その人形はどこに運んだのですか？」
「この部屋を出てすぐだ」
　というわけで、俺は扉を開け部屋を出る。
　…
「だ、誰じゃ…サイガ？と…」
　どうやら、金髪少女は起きたようd「ナガンちゃーん!!」
　ゑ？
「え、ちょサイガ!?待つんじゃ！」
「フヘヘヘ、今なら弄り放題…」
　まさかのサイガさんレズ？
　まあ…アリだな。いや、どっちも重傷負っているじゃん。
　とりあえず止めるか。この状況だとチョップぐらいしないとやめなさそうだし。
「とりあえず、やめろ」ゴン
「あいた」
　やべ、力入れすぎた。まあ、人形だしセーフセーフ。
「ありがとうなのじゃ…お主は何者じゃ？」

「俺は佐藤颯一郎。ただの傭兵だ。…まあ今はグリフィンの依頼をこなしているが」
適当に紹介。大体こんなんでいいもんよ、俺みたいな傭兵は。
「サトウ？ソウイチロウ……まさか正規軍極秘の対ＥＬＩＤ殲滅型人型兵器である、貴方様に会えるとは光栄なのじゃ…あ、いえ！光栄です!!」
ゑ？あ、いやだか「ナガン!?その情報どこから!?確実性はあるの?!」
「そ、それが…あるのじゃぞ！この前、クルーガー社長とすれ違ったとき……「サトウソウイチロウ…正規軍からは対ＥＬＩＤ殲滅型人型兵器と…」と、呟いているのを聞いたのじゃぞ!!」
「ということは……」
「そうじゃ！しかも、正規軍基地を破壊したこともあるから…」
「え、嘘……先ほどまでの無礼申し訳ございません!!最悪この体で払うので!!どうか!!」
ナニコレ。
もうやだおうちにかえりたい。というかせいきぐんともうかかわりたくない。
というか俺、そんな大した存在じゃないから！正規軍の呼称ＥＬＩＤ虐殺魔、人型遺跡兵器ともなんか、結構前に開発部門の野郎どもがふざけて付けたものだぞ!?多分クルーガーさんはたまたま思い出しただけだろ。
正規軍基地の破壊もちゃんと理由あるから。破壊したのは事実だが…

早く説得した方がいいな……体で払うとか言ってるので、男としては色々と不味い。
特に世間体が。
骨が折れるぞクォレハ…

正規軍のすることは良く分からない

説得に二時間かかりました。

誰だよ、変な噂流した奴（半ギレ）。噂の中に事実もちゃんとあるが、俺は軍の兵器じゃねえし、ましてや遺跡の兵器でもない。

…そう呼ばれたことがあるのは事実なんだよなぁ。あいつら許さんぞ。（開発部門）あの時元帥の軍服と階級章の外見をした、装甲服とジャミング装置も送ってきやがって。

……待てよ？俺が正規軍になればいいのでは？新ソ連軍のどこかでもいいな。帰ったら軍服モドキと階級章モドキを探すか。※ＥＬＩＤを殲滅し、元帥の服装をした現場に立つ一人軍隊（ワンマンアーミー）な元傭兵になることになります。

閑話休題。（現実逃避完了）

今はとりあえず、助けを呼べたからヘリが来る地点まで移動している。ナガンの足は探索したら出てきた廃棄されていた人形から取って付けたので移動に関しては問題ない。

ついでに装填済みのＲＰＧ―７が見つかったので装備している。やったぜ。

というか、救助を呼べてよかったぜ。まあ…正規軍なんですが。

グリフィンならまだ気が軽いんだが、軍は……　あれ（予算吸い尽くし）　とか　これ（軍基地破滅）　とかしたから気まずい。半分正規軍の自業自得だし、背に腹は代えられないから、素直に救助にくることに感謝するか。

ん？何だあれ。いつぞやの要塞砲※グリフィン本社を攻撃したものは佐藤の戦車によって破壊されました。か？

「あれは…ジュピター!?」

ジュピターっていう名前なのか。正規軍の奴に似ているんだが。

「これは迂回するしかないな。ルートを再確認だな……うん？…は？」

ウッソだろお前!?なんでジュピターのすぐ側が救助ヘリが来る地点なんだよ!?

まあ、落ち着け。世界タービンが回っているから大丈夫だ。

どうってことはないはずだ。

…ん？何言ってんだ俺。一周回って落ち着いてきたぞ……変な電波拾ったな…

「あの…？サトウさん？どうしましたか？」

サイガがそう聞いてくる。ナガンも心なしか不安そうだ。

状況を知らせてなかったな。

「これを見ればわかるんだが……ここがジュピターがいる場所で、ここがヘリが来る場所なんだが…」

端末の地図と送られてきた情報を使い、サイガとナガンに状況を説明する。
「つまり、ジュピターが居て、攻撃を受ける可能性が高いということじゃのう…どうしたものか」
そうだ、おばあちゃん。じゃなかったナガン。
いや、これは洒落にならないわ。ほんまどないしよ。
対抗できそうなものは…このＲＰＧしかないし。※こいつならＡＫ一丁で対処可能です。
…
ま、正規軍が何とかしてくれるか（脳死）
だったら、早速部隊を送ってもらおうか。またカーター将軍にでも電話入ｒ。
ドカーン!!!
…え、えぇ（困惑）
「あ、あれは!?」
「…正規軍の兵器かのう?」
二人のテンションの差がすごいな。うーんと…あれは……あっ（察し）
「キュクロープスにケンタウロス、オルトロスだな。後ろにヒドラにテュポーンか……なんでいるんだ?」

正規軍さん、殺意高すぎません？ヒドラまでは百歩譲っていいとして…問題はこいつ、テュポーン。レールガン搭載ホバー戦車は引っ込んでろ。ジュピター位ヒドラで十分だろ。多分。

……なんか、この蹂躙具合を見ているとアルゴノーツのことを思い出すなぁ。

レールから外れても動いてたのは面白かったな※装甲列車です。。いっその事、あれには履帯をポン付けしたらいいと思ったぞ※装甲列車です。。

ピピピ!!

そんな戦場で着信音が鳴る。誰だよ。

…

ペルシカじゃねえか!?あいつの方から電話かけてくるのは珍しいな…

正規軍のおかげで鉄血兵が見当たらないし、出るか。

『やあ、サトウ君。いきなり電話をしてすまないね』

「ああ、わかった。切るぞ」

そういえば、ペルシカから電話がかかるときは大抵めんどくさいことだったわ。切るか。

『ああ!?待って待って！ほんとに大事な話だから！』

「…まあいいか。で、なんの話だ？手短に話せ」

『何というか、まあ…君のところのＦＮＣがね……急に現れたから改造しちゃった☆』テヘッ

「何言ってんだこいつ」

何言ってんだこいつ。

『そんなこと言わないでほしいな。だけど、ＦＮＣの安全は保障するよ。迎えに来てはほしいかな』

「ああそうか……なあ、一つ聞きたいことがある」

ペルシカって色々と変な事するからな。一つどころか十ぐらいあるが…

まあ、まずはあれからだな。

『なんだい？』

「お前、４０４の連中に何をした？」

『え、え？』

「まず、お前にとって俺は実験体だろうが。観察するために暗部ぐらい送るだろう。なんなら、俺を試してるんだろう？」

『…』

どう考えてもこいつならやりかねない。実験体扱いは軍とカルト教団で懲り懲りなんだが。

ピ！

あ！切りやがったぞあいつ。まあいい。ＦＮＣを迎えに来いとか言ってたから、迎えに行くついでにで聞き出すか。

おっ、殲滅し終わってる。正規軍様様だな。

さてさて、ヘリにでも乗りに行きますか。

その後（依頼報酬受け取り後）

「正規軍は何を考えてるんだ……こんなにＴ―ｄｏｌｌやらは要らないんだが…」

依頼報酬とはいえなんで、人形どころかヒドラやテュポーンまで付くんだ？

しかも、軍艦もくれるとかいう始末。あの遺跡にどんな価値があったんだよ。滅茶苦茶にヤバい依頼が来るなこれ。

……基地に帰ってから、扱いを考えるか。

正規軍よ、自重してくれ

「どうぞ、佐藤様」

Ｆ２２の基地。

外のヘリポート近く、テーブルと椅子が置かれ、燦々たる太陽に見守られながらアフタヌーンティーを嗜む、俺。

紅茶を入れてくれたのは、いつも食堂にいるメイドっぽい調理人形。

ケーキスタンドからケーキを取り、一口。そして紅茶を飲む。

そして一言。

なにこれクソマズ。軍のケーキは砂みたいじゃねえか。※紅茶を飲んだのはお口直しだったようです。

…そろそろこんなものやめよう。正規軍ふざけんな。依頼報酬のついでに送り付けてきたケーキはクソ不味いし。

だが、いっしょに送られてきた紅茶はまだマシだし、ＦＮＣを遅れに遅れているが、送ってくれるから文句は言えん。

しっかしまあ、良くも正規軍が介入して、ＦＮＣを即興で改造し、こっちまで送り届けてくれるって言うが……信用ならん。なぜ介入した？なぜ改造した？

何が「技術革新になりそうな物を見つけてくれた。代わりに依頼報酬を引き上げよう」だよ。まずはＦＮＣを送り届けてくれ。もう三日は経っているんだが。

もうやだこの軍。

……テトリスでもして、また現実から逃げるか。何故か４０４いないし。

テンテレテンテテテン…

…

「あの～指揮官様？」
なんだカリーナか。
「なんだカリーナ。何かあったのか？」
嫌な予感が…これから正規軍がちょろっと来るのに、他にも面倒事が来るのか？いや、もう一つだけあったな。なんだっけ。
「いやそのぉ…この状況はどういうことですか!?」
カリーナが周りの正規軍の人形に指をさす。
なんだそっちか。たかが、軍用戦術人形＋αが居るだけだろ。
「ただ、正規軍の人形や兵器が警備してるだけだろう。何の問題もないぞ。ついでに俺はアフタヌーンティーを嗜んでるだけだ。紅茶飲むか？」
「えぇ…じゃあ…」

「どうぞ、カリーナ様」
…やっぱこの調理人形の仕草はメイドっぽいな。見た目もだけど。
「あの指揮官様。一つよろしいでしょうか？」

「なんだ」
「失礼ですが、その軍服は…？」
カリーナにそう言われたが…。正規軍から貰ったもの※語弊しかない。……でもいいが、ちょっと盛って話すか。
「この階級章の意味は分かるかい？」
「い、いえ。分かりません…」
「Ｍａｐｕｍａｎ（元帥）という階級章であり、称号だ。あまり付けたくないものだがね」
本当に正規軍（あいつら）は何しでかすかわからんからな。
パラパラパラ…
おっ（ヘリ）着いてんじゃーん。
「まあ、そんなことはどうでもいい。ヘリが来たようだな」
ん？なんか人形が乗っているな……あ、思い出した。なんか”Ｉ．Ｏ．Ｐ．社製”戦術人形を訓練してくれだとか。なお、別依頼扱いにしたから、もっと金が入る。やったぜ。
……待て、一つだけ言わせてくれ。
なんで、正規軍のヘリに乗って来た？
困惑しかねぇよ。正規軍のクソどｍ…皆さん。お節介焼きすぎないか？

貸しを無理矢理作らせて返させるつもりか？
お、着陸した。歓迎の意と、正規軍には労いの言葉でもかけｔ。
「指揮官様――！」
は？ゑ？ＦＮＣがそう呼んで抱き着いてきた。まるで意味がわからんぞ!?
「お、おかえりＦＮＣ。…ケーキ、食うか？」
「いいの!?チョコケーキある!?」

戦術人形ＩＷＳ　２０００　ｓｉｄｅ
こんにちは。私はＩ．Ｏ．Ｐ．社製戦術人形ＩＷＳ　２０００と申します。
この度はＦ―２２地区のグリフィン基地へ所属することになったのですが…
なぜ正規軍のヘリコプターに乗せられているんでしょうか……
私以外にもＦ―２２地区の基地へ行かれる人形もいますが、ＦＮＣさんを除いて緊張した雰囲気が感じれます。良くも悪くも名が知られているＭＤＲさんもおりますが、端末で写真を撮るようことをしてません。
胃が痛いです。
何故、こんなにも軍と関わっているのでしょうか。どんなお偉い方に合うのでしょう

か。生きて帰れるでしょうか。

「着陸する。各々直ぐに出れるように準備しろ」

おっと、いつの間にか基地の上にいたようです。なんとなく外を見てみると…

…見なかったことにしましょう。Ｈｙｄｒａ（マンティコアっぽいもの）や滑走路とＢ―２９（爆撃機）、Ａｂｒａｍｓ（戦車）、Ｔｙｐｈｏｎ（軍団）なんかが見えましたが幻覚でしょう。きっとそうです。

…降りる準備をしましょう。

＝＝＝＝＝＝＝

「指揮官様―！」

若い指揮官らしき人が、ＦＮＣさんにそう言われました。ただし軍服なので本当にグリフィンの指揮官かはよくわかりません。

「お、おかえりＦＮＣ。…ケーキ、食うか？」

「いいの!?チョコケーキある!?」

ただ、ＦＮＣさんが勢いよく彼の元に飛びついたということは…？

「「さ、サトウさん!?」」

突然、サイガさんとナガンさんが叫びました。

「ん？サイガとナガンじゃないか。三日ぶりだな」

どうやら知っている仲であったようです。あ、ヘリが離陸しちゃった。

「…あの…挨拶は…」
「ああ、そうだった…ゴホン。改めて、F―22基地へようこそ。ここの仮の指揮官として着任している、佐藤颯一郎です。至らない点がありますが、よろしくお願いします」
「き、急に腰が低いなぁ…どう見てもお偉いさんなんだから、もっと自尊心が有ってもいいと思うよ?」
「えっと、私ももう少し自信があってもいいかと…」
サイガさんもナガンさんも頷いてますし。
「そういうものなのか?じゃあ遠慮なく。…取り合えずお茶でもしないか?自己紹介ついでに休憩しよう。あんなむさ苦しい所にいただろうし」
どうやら、お茶をくれるようで…横にいるメイド人形の方が入れてくれるのでしょうか?
…なんかちょっぴり楽しみです。